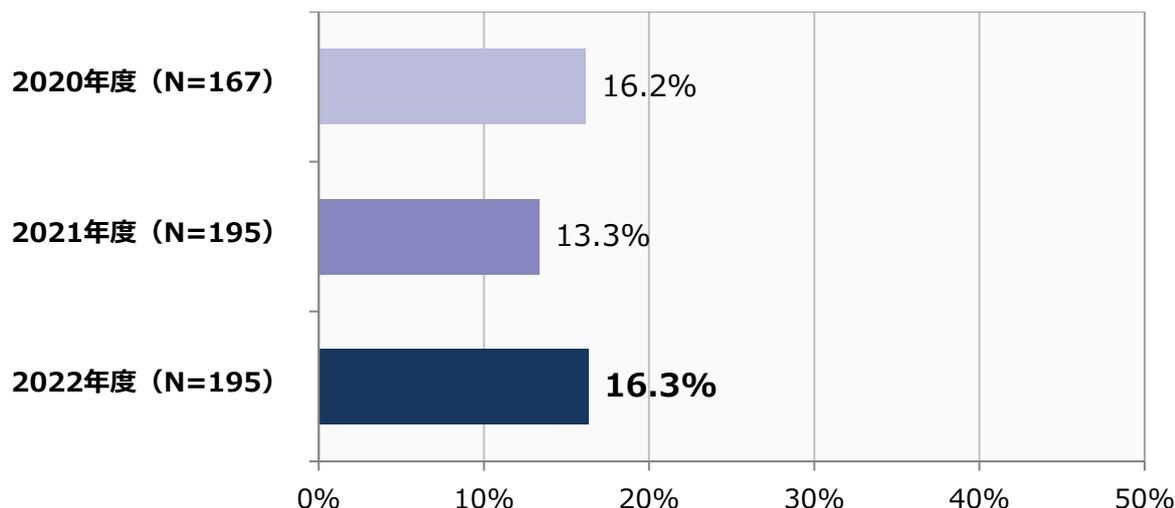


初回化学療法口腔ケアスクリーニング介入率

がん化学療法を行う患者さんでは多くのケースで口内炎が発症します。

抗がん剤の直接的な粘膜に対する作用と骨髄抑制による易感染性のために口内炎が生じやすくなるからです。口内炎が発生しないように口腔内を清潔にする必要があります、その為化学療法開始前にP M T C（専門的機械的歯面清掃）により口腔内の細菌を可能な限り少なくするとともに、口腔疾患のチェックを行い必要に応じ歯科治療を行う必要があります。

初回化学療法でスクリーニングを行うことで、早期にP M T C処置介入が出来、口内炎の発症を減少させることができます。



当院値の定義・算出方法

分子： 初回化学療法入院時に口腔ケアスクリーニングのオーダーがされた患者数
(リハビリオーダー (口腔ケア) でカウント)

×100 (%)

分母： 初回化学療法入院患者数 (化学療法剤は点滴、内服両方をカウント
レジメンオーダーより抽出)

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

改善策について

2022年11月より福岡歯科大学歯科医師による歯科診療（周術期口腔機能管理）が、外科の悪性腫瘍手術目的で予定入院する患者において、入院当日午後に院内で施行されるようになりました。それにより手術後、化学療法に移行する患者の早期介入も促進され、口内炎、齲歯等による化学療法中断は発生していません。また、病棟で介入が必要と判断した患者については、担当医より橋本歯科衛生士へ直接連絡する流れもできており、定着しています。

文責：がん治療センター委員会
委員長 江見 泰徳